

第1章 事業概要

第1節 事業目的及び本報告書について

1-1-1. 目的及び経緯

知的財産を豊富に創造し、これを保護・活用することにより、わが国の経済と文化の持続的な発展を目指す「知的財産立国」の実現には、質の高い知的財産を生み出す仕組みを整え、知的財産を適切に保護し、社会全体で活用する環境整備が重要である。特に、知的創造サイクルを支える人材の育成・確保は急務であり、学校教育を通じた幼少期からの知的財産マインドの涵養、大学等の高等教育機関における知的財産に明るい人材の育成、中小・ベンチャー企業での知的財産制度に対する理解と関心の増進など、国民全体への知的財産制度に対する意識の醸成と知識の向上を図るための環境整備が重要である。

さらに、国民の知的財産意識を向上させるためには、学校教育機関において知財マインドをもった人材の育成を推進することが重要であるが、「知的財産推進計画」との関連で述べれば、これまで「知的財産推進計画第1期（2003～2005年度）、第2期（2006～2008年度）」の基本方針としては、主に権利保護に注力された。その中で、第2期の最終年にあたる平成20（2008）年度計画では、知的財産推進計画2008の第5章4「国民の知的財産意識を向上させる」において、(1)「学校における知的財産教育を推進する」こと、(2)「地域における知的財産教育を推進する」こと、(3)知的財産の創造、保護、活用の体験教育を充実することが述べられ、同じく、第5章5.(6)「専門高校における知的財産教育を推進する」においては、「工業高校や農業高校などにおける知財教育に関するこれまでの取組事例を活用するとともに、そのような取組の普及と定着を促すため、地域との連携や学校間の連携を取り入れた教育実践プログラムの開発を支援し、専門高校における知財教育を推進する」ことが述べられ、それぞれ活発に推進されてきた。

平成21（2009）年度からの「知的財産推進計画第3期」の基本方針は、知的財産をいかに経済的価値の創出に結びつけるかを重視することとされ、知財教育を推進する中で知財マインドをもった人材を育成することに関しては、第3期初年度の知的財産推進計画2009のⅡ-1-(3)-②において、『地域における知的財産教育を推進する』ことが謳われている。

平成22（2010）年の知的財産推進計画2010では、今後の我が国の産業の国際競争力強化のための中核に位置づけ、新成長戦略と連動し、科学技術政策、情報通信技術政策と一体化してスピード感を持って推進することとして、知財人材育成においても「専門学校や大学と産業界等との連携による、コンテンツ分野等の人材育成に関する枠組みモデルの構築」「専門学校や大学と産業界等との連携によるプログラム開発の拡大」「質の高い教育プログラムによるコンテンツ分野等の高度・中堅人材の重点的な養成及び専門学校や大学と産業界等との連携による教育プログラムの改善・更新」などが改善目標として掲げられている。

平成23（2011）年の知的財産推進計画2011においては、東日本大震災への対応を含め、①国際標準化のステージアップ戦略、②知財イノベーション競争戦略、③最先端デジタル・ネットワーク戦略、④クールジャパン戦略の4つを重点戦略として強力に推進するものとして、「知的財産戦略を支える人材の育成・確保」も挙げられている。

平成24（2012）年の知的財産推進計画2012においては、情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略が打ち出され、その中でも情勢変化と知的財産戦略の新

たな挑戦の中の3. 新時代に立ち向かう知的財産戦略の新たな挑戦においては、知財イノベーションのための総合戦略を協力を推進する。とし、更に最先端の知財マネジメント人材を養成する場の形成や知財マネジメント戦略研究拠点の整備を含め、新たな時代に対応する知財人材を加速的に育成・確保する「知財人材育成プラン」を強力に実行する。とされている。

一方で、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略の中では、1. ③次世代の知財人材を育成し確保する。として、国内の知的財産権の取得・維持・管理に直接的に関わる「知財専門人材」の育成と併せて、イノベーション戦略に基づきグローバルにイノベーションを創出し、国際競争力の強化に資するような形で、事業戦略に巧みに適切かつ先行的・実践的に知財を活用できる「知財活用人材(知財マネジメント人材)」にまで、知財人材の育成の重点を広げなければならないとしている。

平成25(2013)年の知的財産推進計画2013では、3. グローバル知財人材の育成・確保が上げられており、更に平成26(2014)年の知的財産推進計画2014では、6. 政府が中心となった人材育成の場の整備として、政府が主導的な役割を果たして知財人材の育成を行う場の整備を早急かつ着実に進めていくべきであるとしている。

平成27(2015)年の知的財産推進計画2015では、8. 知財人材の戦略的な育成・活用のなかで、知財教育の推進について記載されている。

平成28(2016)年の知的財産推進計画2016では、前年度に取り上げられた知財教育の推進から進展し、「知財教育タスクフォース」を設置して、社会と協働した知財教育の推進の在り方について議論を行い、今後、我が国が知財教育を推進していくに当たっての求められる方向性が3点整理された。

- ① “国民一人ひとりが知財人材” を目指した発達の段階に応じた系統的な教育の実施
- ② 社会との関わりや知識の活用を視野に入れた創造性の発展のための仕掛け
- ③ 地域・社会との協働(産学官連携による支援体制構築)の実現

平成29(2017)年の知的財産推進計画2017では、Ⅱ. 知財の潜在力を活用した地方創生とイノベーション推進 3. 「国民一人ひとりが知財人材」を目指す知財教育・知財人材育成の推進の項目が掲げられ、その項目における現状と課題として「発達の段階に応じて、新たな発見や思考の源泉となる創造性を育むとともに、知的財産の保護・活用の重要性に対する理解の増進と態度形成を図り、もって知的財産の創造に始まり、保護・活用に至る知的創造サイクルの好循環を生み出すための人材を育む教育(知財創造教育)」の全国的な普及を推進することが求められている。

平成30(2018)年の知的財産推進計画では、2. 「知的財産推進計画2018」重点事項 (1)これからの時代に対応した人材・ビジネスを育てる 「④知財創造教育・知財人材育成の推進」において、「イノベーションの創出のためには、新しいものを創造する人材や、創造されたものを活用したり他の様々なものと組み合わせたりして、新しい価値を生み出す仕組みをデザインできる人材が必要である。」「今後は、知財創造教育を一層教育現場に浸透させるための取組を行うとともに、高等学校における知財創造教育の体系化や、現場の教職員が知財創造教育を実践できるようにするための支援方策について検討することが求められる。」とされている。

その他教育現場においては、高等学校における新学習指導要領が平成30(2018)年3月に公示され、

同要領において、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちが急速に変化し予測不可能な社会において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する」ことが基本的な考え方の一つとされている。「高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探求を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められる」として、「①知識及び技能, ②思考力, 判断力, 表現力等, ③学びに向かう力, 人間性等」の「資質・能力の三つの柱が、偏りなく実現されるよう、・・・授業改善を図ること」とされ、例えば、理数教育においては、「将来、学術研究を通じた知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成を目指し、新たな探求的科目として、「理数探究基礎」及び「理数探究」が新設された。この新高等学校学習指導要領は令和4年(2022)年4月1日以降の「第1学年に入学した生徒(略)」に係る教育課程及び全課程の修了の認定から適用」されることとなっており、今後、高等学校における知的財産教育を通じた知財マインドをもった人材の育成の取組みは、一層促進されると考えられる。

このような流れに先立ち、「知財力開発校支援事業(以下、「本事業」という。)」の前身となる事業として、平成12(2000)年度に「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」が開始された。平成12年度には工業高等学校を対象に事業が実施され、その後、高等専門学校(平成13(2001)年度から実施)、商業高等学校(平成14(2002)年度から実施)、農業高等学校(平成15(2003)年度から実施)においても順次実施された。その後、平成20(2008)年度より全国の高等学校(専門学科)及び高等専門学校における知財マインドを持った人材の育成の一層の充実を図るため、これまでの事業名称を「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」として実施してきた。

この平成12(2000)年度から平成22(2010)年度にかけて実施された「産業財産権標準テキスト」の活用を軸とする事業は、事業実施期間中に多くの成果・実践例を生み出し、我が国における高等学校(専門学科)及び高等専門学校における知財人材の育成(知財教育)の発展に大きな役割を果たしてきた。

そして、平成23(2011)年度からは、産業界からの人材育成に関する要望や、政府の人材育成政策に応えるため、近い将来企業等で活躍することが見込まれる「明日の産業人材」を育成する「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業(以下、「開発事業」という。)」を新たに展開している。

本事業においては、知的財産権制度に関する理解を深めていく過程において生徒・学生が創作した発明・意匠・商標についてのアイデアを地域の専門家(弁理士等)とのコンサルテーションや地元企業等との連携等により知的財産としていく過程を模擬的な出願書類の作成、試作品の作成、地元企業等との連携を通じた商品の開発等、知的財産権の取得に向けて必要となる活動の体験などの実践の場を通じて知的創造力や実践力・活用力を育む取組を行うことを支援している。また、平成26年度からは、知的財産に関する創造力・実践力・活用力に関する実践的な能力を養成する取組の導入と基本的な知識の習得を目指す取組の計画を策定し、その実践を通じて組織的な取組として定着を図っていくことを目的とした「導入・定着型」と、知的財産に関する創造力・実践力・開発力開発事業において知的財産学習の組織的な推進体制ができ、既に知的財産学習が定着し、新たな特徴ある取組にチャレンジする学校を最大3年間支援することを目的とした「展開型」に区分して事業が実施された。

令和2年度からは、全国の高等学校(専門学科)及び高等専門学校を対象に、生徒・学生が、身の回りのアイデアが社会では知的財産権として保護されていることや、ビジネスの中で権利として活用されていることの実態に触れながら、知的財産の保護や権利の活用についての知識や情意、態度を育む特色ある学校の

知財学習の取組を支援する「知財力開発校支援事業」が「開発事業(令和3年度迄をもって終了)」の後身の事業として新たに実施されている。

1-1-2. 本報告書の内容

知財マインドを持った人材の育成とその取組の普及や定着を図るために、参加校における生徒又は学生が知的財産に関する知識の習得や創造力及び実践力・活用力を育む過程について分析するとともに、取組を通しての地域や関係機関からの支援や連携の状況の具体的な事例を収集してとりまとめを行ったものである。

各学校の実践活動は、1年間にわたる取組であり、この報告書は、参加校からの年間指導報告書や教員に対するアンケート結果等を元に作成している。

1-1-3. 参加学校数の推移

前身の事業となる「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」(H19年度以前)、「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」(H20～22年度)及び「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」(H23～R3年度)も含めた参加校数(延べ数)は、下記の表およびグラフのとおりである。

表1-1-1 参加校数の推移

実施年度	H17以前	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	合計 (延べ数)
工業	295	44	39	23	25	34	39	48	53	48	48	39	36	25	22	21 (6)	16 (4)	17	22	894
商業	68	31	23	10	10	13	11	21	28	19	24	20	21	12	10	7 (1)	7	6	4	345
農業	46	18	13	9	6	12	10	13	13	10	15	15	9	3	1	3	3	5	4	208
水産	—	—	—	—	—	2	3	5	5	7	7	5	8	5	5	5 (1)	6	5	6	74
情報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	4
家政	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	1
高等学校 合計	409	93	75	42	41	61	63	87	99	84	94	79	74	45	38	37	34	34	37	1526
高等 専門学校	65	13	15	17	15	19	14	13	14	16	9	10	8	7	4	4	4	4	5	256
全合計	474	106	90	59	56	80	77	100	113	100	103	89	82	52	42	41	38	38	42	1782

※令和2・3年度の()内の数字は、開発事業参加校の参加校数を内数として示している。

図1-1-1 令和5年度参加校の分布

令和5年度知財力開発校支援事業

参加校 一覧

工業	22校	商業	4校
農業	4校	水産	6校
情報	1校	高専	5校

計：42校



四国地区 3校

香川県立多度津高等学校
香川県立普通寺第一高等学校
愛媛県立宇和島水産高等学校

九州地区 8校

大分県立大分工業高等学校
大分県立情報科学高等学校
鹿児島県立川内商工高等学校
鹿児島県立薩南工業高等学校
鹿児島県立鹿児島工業高等学校
熊本県立熊本農業高等学校
宮崎県立宮崎海洋高等学校
日本文理大学附属高等学校

近畿地区 6校

大阪府立工芸高等学校
兵庫県立相生産業高等学校
兵庫県立長田商業高等学校
大阪府立園芸高等学校
京都府立海洋高等学校
奈良工業高等専門学校

中国地区 3校

山口県立徳山商工高等学校
山口県立下関工科高等学校
山口県立田布施農工高等学校

関東地区 12校

群馬県立前橋工業高等学校
埼玉県立大宮工業高等学校
東京都立多摩科学技術高等学校
神奈川県立神奈川工業高等学校
長野県立上田千曲高等学校
静岡県立藤枝北高等学校
茨城県立那珂湊高等学校
千葉県立千葉商業高等学校
神奈川県立平塚農商高等学校
静岡県立焼津水産高等学校
サレジオ工業高等専門学校
沼津工業高等専門学校

中部地区 4校

富山県立富山工業高等学校
岐阜県立岐阜工業高等学校
岐阜県立岐南工業高等学校
愛知県立三谷水産高等学校

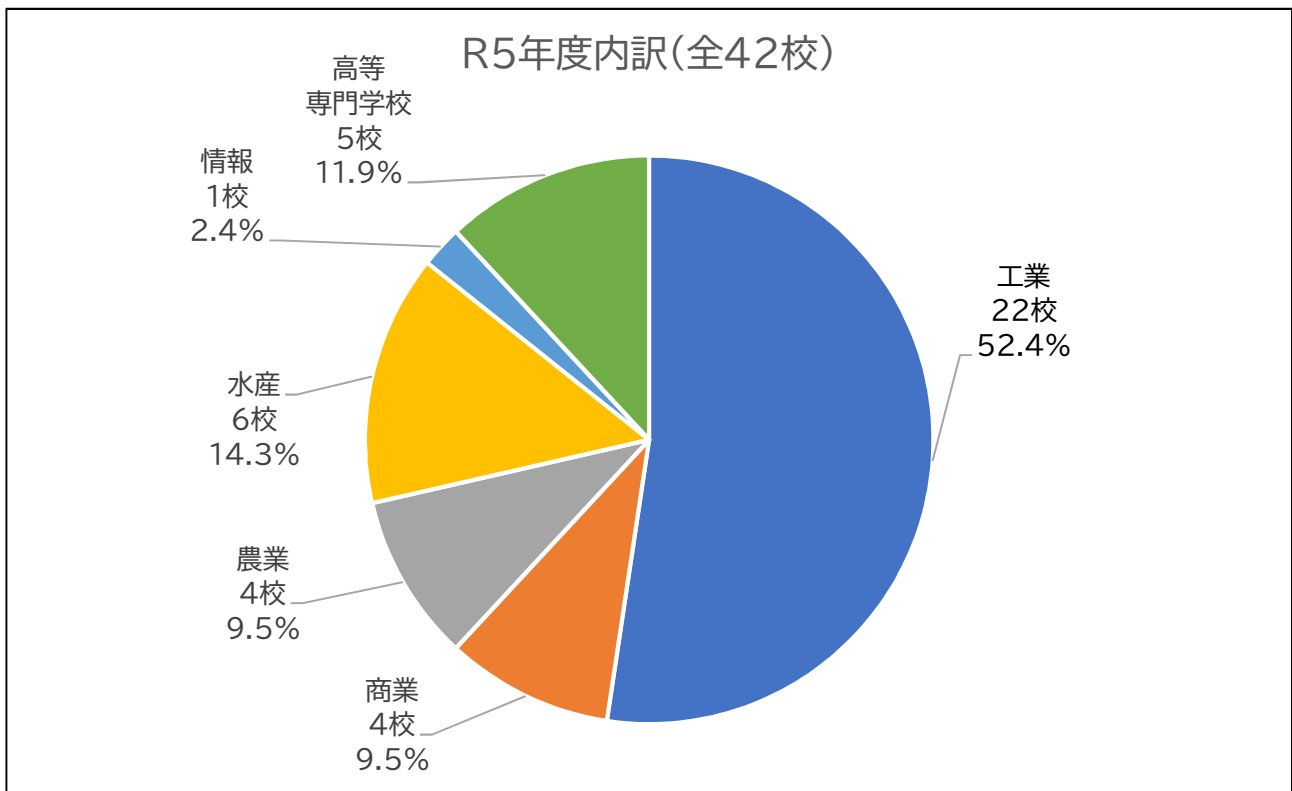
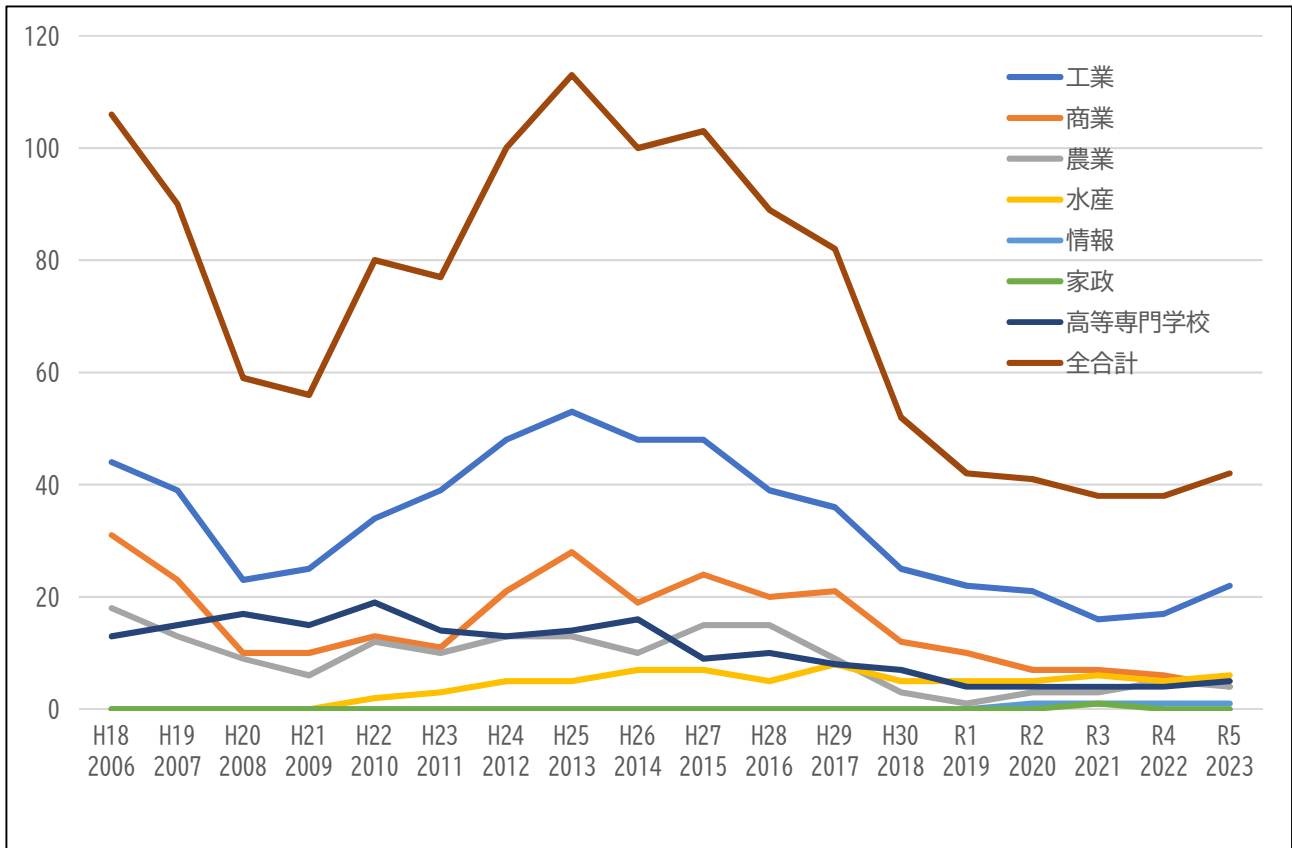
北海道地区 1校

旭川工業高等専門学校

東北地区 5校

宮城県工業高等学校
秋田県立増田高等学校
山形県立置賜農業高等学校
秋田県立男鹿海洋高等学校
一関工業高等専門学校

図1-1-2 校種別参加校数の推移



第2節 参加校の指導対象・取組内容

令和5年度参加校(工業22校、商業4校、農業4校、水産6校、情報1校、高等専門学校5校 合計42校)の指導対象・取組内容(取組の目的・目標の要約)を記す。

表1-2-1各校の指導対象・取組内容

工業

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
工 01	宮城県工業高等学校	3	情報技術科	課題研究(総合的な探究の時間)	・日常生活の「困った」を自分の課題とする明確な課題意識の育成(知財担当教員による知財講話) ・アイデア創出(発想)訓練(4-①と同じ) ・答えのない問いに対し自分なりの答えを導き出す(紙タワーでアイデア創出とアイデア具現化体験)
		2	情報技術科	情報技術実習	・ものづくり(総合的な探究の時間(課題研究)) 「探究とは何か」の明確化、テーマ設定のコツ、気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成(知財担当教員による知財講話)
		1	情報技術科	工業情報数理	・ものづくり・研究(化工部) 学都「仙台・宮城」サイエンスデイ出展(東北大学) 産フェアへの出展
		3	機械科	課題研究(総合的な探究の時間)	・ものづくり・研究(情報研究部) WRO 出場、プログラミングコンテスト出場→優勝、若年者ものづくり競技大会参加 ・ものづくり・研究(自動車部) ソーラーラジコンカーコンテスト in 白山参加
		3	化学工業科	課題研究(総合的な探究の時間)	・気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成 バイオミメティクスを利用したものづくり(新潟大学山内教授による講話) 「未来を拓くナノ粒子技術を利用したものづくり」(群馬大学 佐藤和好准教授による講話)
		2	化学工業科	化学工業実習	・製品開発の成功の鍵(問題解決の糸口を知る) 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成 知財担当教員による講話
		1	化学工業科	化学工業実習	・答えのない問いに対し、自分なりの答えを導き出す ・宮城県が抱える問題をデジタルの力で解決を目指す 日立ソリューションズ東日本との連携(出前授業) DX アイデアを社会実装するための考え方
		全	情報技術研究部	部活動	・コンテスト応募 パテントコンテストへの応募 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成 知財担当教員による講話および授業展開
		全	自動車部	部活動	・全校生徒への技術的な新聞記事の紹介 河北新報の技術的記事の特集、編集し配付 あらゆる技術で「何ができるか」を知る 技術による社会課題の解決 進路選択への一助
		全	化工部	部活動	・J-Plat Pat における検索技術の習得 先行技術調査方法の習得 先行技術との差別化のコツ 創出したアイデアへのアドバイス (東北大学 木下弁理士による知財講話)
全	図書部	LHR	・スーパーコンピューター「富岳」の見学(修学旅行) 最先端技術の社会的課題解決への活用事例 ・発明体験ワークショップ参加 パテントコンテストへの布石		

工 02	群馬県立前橋工業高等学校	1	機械科	工業情報数理	<ul style="list-style-type: none"> ・主に著作権の制度について学び、発表用スライドの作成を通して注意事項を整理した。 ・身近な製品を題材に特許権、実用新案権、商標権について学び、J-PatPat により文書作成などの手続きについて学習した。 ・主に特許権について詳しく説明を受け、「ペーパータワー」のワークショップにより発明の一端を体験した。
		2	機械科	機械工作	<ul style="list-style-type: none"> ・大学から専門家を招致し、新規デザインを考案する際の手法やプレゼン用資料のまとめかたなどを学習した。 ・「プロダクトデザインコンテスト」への応募作品制作を通して、先行出願事例の調査やデザイン思考について学習した。 ・大学の専門家を招致し、応募作品についての講評をいただいた。また生成 AI の活用事例について学習した。
		3	機械科	機械工作・製図	<ul style="list-style-type: none"> ・彫金・鍛金の技術を習得し作品制作を行った。 ・美術品・工芸品などの展示会に足を運び、アーティストによる世界観の表現方法や、伝統技術について学んだ。 ・主に意匠・商標について学習した後、3D プリンタによる立体造形を行った。 ・著作権に配慮した課題研究における発表資料の作成
工 03	埼玉県立大宮工業高等学校	1	機械科・電気科	工業技術基礎/講話	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社サンステラによる講話(工業技術基礎)
		3	電子機械科	課題研究/共同開発	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルについての講話(工業情報数理) ・地球環境問題への対策に関する研究開発 ・本校マスコットキャラクタの開発
		1~4	工業技術科(定時制)	特別活動/講話	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の基礎 弁理士講話(定時制)
工 04	東京都立多摩科学技術高等学校	1	科学技術科	科学技術と人間	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の概念の理解 ・実習等において知的財産権について学ぶ ・発想訓練において創意工夫するアイデアを考える
		2	科学技術科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアの文書化 ・課題研究における研究活動
		3	科学技術科	卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> ・パテントコンテスト参加 ・課題研究発表会
工 05	神奈川県立神奈川工業高等学校	2	機械科、建設科、電気科、デザイン科	2年課題研究 / 座学・実習	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権についての基礎学習 知的財産権について、身の回りにあるものが権利によって保護されていることを動画視聴やワークシート等を用いた学習を行うことで学習した。また、J-PlatPat による探求活動では特許や知的財産に関する理解を深めることができた。 ・パテント、デザインパテントコンテストを意識した創造体験学習 各クラスで1班6~8人程度の班を形成し、アイデアを出し合った。「発明」について初めて考える生徒や、普段から何かしらのイメージを考えていた生徒まで多岐にわたった。最後はクラス毎で発表しあい、優秀と判断したものについてはパテントコンテストに応募した。また、デザイン科は33名がデザインパテントコンテストに応募した。 ・富士通総研 ReBaLe(Reverse&Redesign-Based Learning:レバレ)を用いた課題発見・解決 数人のグループに分かれ、実社会で動いている製品からターゲットを選び、ターゲットの仕組みを構成する要素や技術に分解して考えた。最後には班ごとに発表を行った。 ・三年次の課題研究に向けた調査・研究 この一年間の活動により身近になった「課題解決力」という力を生かして取り組む三年次の課題研究に向けて準備を行う。三年生の課題研究発表会を実際に聴講し、自分たちは何をやるのかを具体的に考えていく。どの教室で行うのか、設備はあるのか、一年間で完成するのか、予算はいくらくらい必要か…等を数人の班に分かれ話し合いを進めていく。

工 06	長野県上田千曲高等学校	1	メカニカル工学科	工業技術基礎・ものづくり学 ／座学	<p>・知的財産導入講座(知的財産学習の導入) 商業科2年生(約40名)、3年生(約40名)、メカニカル工学科1年生(約40名)を対象に外部講師(企業の経営者や技術者、大学の教員、発明協会など)を招き講演会を実施する。商業科2年生では、知的財産についての基礎的な知識を学び、「原価計算」の授業での経費としての特許権使用料に関連付け、知的財産について理解を深めていく。また、商業科3年生では、「経済活動と法」の授業において、身近にある知的財産にふれ、知的財産権の種類を学び、産業社会や経済活動と知的財産との関わりについて理解を深めていく講義を実施する。メカニカル工学科1年生では、「ものづくり学」の授業の中で、知的財産の基本的な知識を学習し、産業や社会での知的財産の創造・保護・活用について位置付けや関わりについて学習する。特に、メカニカル工学科1年生については、ものづくり教育とあわせて、自身の専門性に沿った内容について多方面から多様な考え方を学び、ものづくりと知的財産学習の入り口として将来につながる知識を経験する機会としたい。いずれも外部講師からの指導ということで、実社会での事例を盛り込んだ内容となることから、生徒が知的財産に直接具体的に触れ、身近なものと捉え学習が深まっていくと考えている。</p> <p>・知的財産基礎講座(知的財産学習の基礎) メカニカル工学科2年生(約40名)を対象に、専門高校生としてのものづくりと知的財産学習への明確な関連性を持てるよう、ワークショップ形式の授業を実施する。アイデアを創造し、そのアイデアをもとに保護、活用するといった知財学習につなげる授業を実践する。生徒は主体的に可能性を広げ、自ら考え行動し、評価・改善する考え方を身につける学習を経験させていく。また、アイデアをまとめ、発表することで知識や考え方を共有する経験も盛り込んでいく。3年次の課題研究の授業やキャリア学習、進路活動を念頭に置き、製品のアイデアや工夫など具体的に分析し、知的財産に触れ、アイデアコンテストやパテントコンテスト等に積極的に関わりを持ち、知的財産学習の中での成功体験を次年度につなげていく活動としたい。また、メカニカル工学科2年生(約40名)、3年生(約40名)を対象に、企業の知的財産部門の技術者から、企業における知的財産の位置付けや実際の製品と知的財産の関わりについての講義を実施する。実際に企業で製造された製品やJ-Platpatなどを使い知的財産とものづくりの関わりを深めていく学習となると考えている。</p> <p>・知的財産実践講座(知的財産学習の実践) メカニカル工学科3年生(約40名)を対象に、授業の中で、高校3年間のものづくり学習の集大成として、生徒自らが問題を見つけ課題解決に向けテーマを設定し、自ら考え行動し課題の解決にチャレンジするような学習を行っていく。その中で、製品のアイデアや工夫など具体的に知り、製品の知的財産に触れることで、将来的に産業界で望まれている知的財産を創出し、マネジメントできる人材になっていく経験として、ものづくりに挑戦していく。校内での他学科との連携や地域企業との連携事業など社会と広くつながり、将来企業で活躍し社会に貢献することのできる人材となる入口として主体的に経験を重ねる活動としたい。一部ではあるがパテントコンテストなどへの応募を目指し、活動するグループもあることから、製品化したいアイデアの創出から応募書類などの作成まで一連の流れを見据え活動していく。本校の知的財産学習の一つのモデルとなるような取り組みとなるよう活動していきたい。</p>
		2	メカニカル工学科	実習・ものづくり学 ／座学	
		2	商業科	原価計算 ／座学	
		3	メカニカル工学科	実習・課題研究 ／座学	
		3	商業科	経済活動と法 ／座学	

工 07	静岡県立藤枝北高等学校	2~3	・工業系列以外の他系列生徒	情報実習 a/情報実習 b	<p>・「バスタブリッジ、バスタクレーン」などバスタシリーズの実習活動の実施 工業実習内で、バスタシリーズの活動を実施し、各チームでポイントによりランキング形式で実施した。</p> <p>・知的財産権に関する基本的知識の学習 産業財産権や著作権を中心にワークシートを用いた知財学習の実施した。</p> <p>・紙飛行機制作によるアイデア学習 工業実習内で知的財産学習後、グループワークによる用紙1枚で「紙飛行機」を制作した。(飛距離の競う大会形式)</p> <p>・知的財産権静岡連絡会の企画・参加(8月実施) 県内の知財力開発支援事業採択校の教員間の知的財産情報活動の情報交換と意見交換を実施した。</p> <p>【参加校】沼津高専・遠江総合(アドバイザー)・焼津水産・藤枝北 会場:藤枝北</p> <p>・本校の知財委員の年度報告会への参加(1月) 今後、本校での本事業活動を定着していくため、活動教員を増員することを目的とする。</p> <p>・外部講師(弁理士)による知的財産権などの講演(9月実施) 本年度は、2学年の農業科・商業科を対象とした「知的財産権」に関する講演を実施した。</p> <p>【テーマ】・特許、意匠、商標などの知財ミックス(商業) ・各種コンテストなどにエントリーするため 「著作権」に関する講義を実施(工業)</p> <p>・「工業実習」などにおいて、一部生徒が設定した実習テーマの実施 3年生の工業実習(本年度は、環境化学系列の生徒が対象)は、マイコン制御を使用し、生徒が仕様を考えたプログラムの実習を行った。</p> <p>・農工商が連携した知財活動の実施(工業間の連携) 【課題研究】情報科学系列・環境化学系列 昨年度、情報科学系列の課題研究において3Dプリンタで、本校の校舎模型を製作した。本年度は、この模型をアップデートするため環境化学系列の生徒による、校舎ジオラマ模型を製作した。</p> <p>・農工商が連携した知財活動の実施(農業・商業間の連携) 本校の畑で栽培した梨と桃を活用した製品開発と製品のパッケージデザインを制作した。最終的に試作から文化祭にて販売する製品が完成した。 (本事業活動費は、商品を開発するための試作段階まで使用した。販売を目的とした量産化には、本経費は使用していない)</p> <p>・知財学習を意識した課題研究をととしてテーマを実施 【ピクトグラムを用いた校内施設の表示板の製作】 校内施設の表示にピクトグラムを用いた表示板に変更した 旧表示板であると生徒や外来者にはイメージしにくいいため ピクトグラムを用いた理解しやすい表示板に変更した。</p>
		2	・情報科学系列(工業)	情報実習 ①	
		2~3	・情報科学系列(工業)	ハードウェア技術/プログラミング技術	
		2	・環境化学系列(工業)	実習化学 ①	
		教員	・環境化学系列 教員 ・情報科学系列 教員 ・食品科学系列 教員	知財静岡連絡会/年度報告会	
		2	・情報科学系列(工業/商業)	コンピュータシステム技術/ビジネスコミュニケーション	
		3	・情報科学系列(工業)	実習化学 ②	
		3	・環境化学系列(工業) ・情報科学系列(商業) ・食品科学系列(農業)	課題研究(工業) /-(商業) /-(農業)	
3	・情報科学系列(工業) ・環境化学系列(工業)	課題研究			

工 08	富山県立富山工業高等学校	3	全6学科	ホームルーム	<ul style="list-style-type: none"> ・パテントコンテストを紹介するとともに、知的財産の目的、種類、定義などの基礎知識を学習するための書籍や資格を説明して、発明アイデアを検討させた。 ・知的財産の基礎知識を理解するためのプレゼン資料を特許庁や日本弁理士会のホームページに掲載されている情報や動画を活用しながら制作し、指導対象の生徒に知的財産の講義を実施して学習させた。 ・ブレインストーミングにより、学校生活や日常生活における課題及び問題点を考えさせるとともに、KJ法による整理・分析を実施して、新しい解決策としての発明アイデアを創出する取り組みを実施した。
		3	電気工学科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・パテントコンテストを公示して発想力を活かした新しいアイデアを募集し、優秀なアイデアの試作品を製作して、発明を具現化する取り組みを実施した。 ・YKK株式会社法務・知的財産部を訪問し、企業活動における知的財産の役割や知的財産の権利化・保護に関する業務について学習した。また、海外での模倣品対策の実状について学び、実務的な見識を深めた。 ・独立行政法人中小企業基盤整備機構より知的財産の活用や訴訟に実績のある講師を招聘して、中小企業における活用事例や知的財産の係争について学んだ。
		2	電気工学科	ものづくり学	<ul style="list-style-type: none"> ・細川国際特許商標事務所細川弁理士より特許出願の価値や要否に関するアドバイスを頂きながら、アイデアを特許出願に繋げる発明提案書の書き方を学び、アイデアを深掘りして考える取り組みを実施した。 ・3年生の課題研究において「電気のちからで学校生活を便利にしよう」というテーマで課題抽出・発明提案を行い、実際に試作品を製作した。 ・特許情報検索「J-platpat」を使用した先行技術調査を実施して、従来技術を確認するとともに、従来技術との差別化を図り、発明を洗練させて、新規性及び進歩性のある実用的な発明となるように議論し検討した。
		1~3	電気工学科	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・パテントコンテストへの入賞を目標に、アイデアを具現化し改良を重ねる取り組みを実施した。 ・特許出願済み「筆記用投影装置」及びパテントコンテスト入賞作品「描画支援装置「絵師トレ」」の改良を実施し、利用者の要望や不便な点を踏まえて、使いやすさを向上させる取り組みを行った。 ・本事業を通して提案された発明アイデアをビジネス的な視点で調査・評価し、日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラングランプリ」に応募した。 ・富山総合支援学校や放課後学童クラブに試験導入して、障がいのある利用者の筆記・描画によるトレーニングや児童生徒の学習支援に活用する取り組みを実施した。また、利用者の要望や改善点を踏まえて、機能の追加や技術的な改良を行う特徴を検討した。
工 09	岐阜県立岐阜工業高等学校	3	航空機械工学科	課題研究／グループ毎	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の成長・雇用戦略を知る。優良企業の取組を理解する。 ・優良企業の雰囲気を感じ取る。 ・パテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの参加・応募 ・具現化の継続実施。
		2	航空機械工学科	実習／クラス	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権や製造物責任法に関する講演会 ・企業見学の実施 ・金型製品や医療に関する製品など、新たな時代の製品に触れる。
		3	設備システム工学科	課題研究／グループ毎	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との懇談会の実施 ・CADによるモデリング講習会の実施 ・教材開発準備 ・モノづくり教室、ワークショップの実施
		全	岐阜工テクノLAB	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテスト出場 ・ソリューションシステムを構成する機器などについて学ぶ ・校種間連携と技術的ブレイクスルーをテーマとした新規マーケティング参入
工 10	岐阜県立岐南工業高等学校	1~2	電気工学科	実習/講演	<ul style="list-style-type: none"> ・企業で活用されている知的財産の講演1~6 ・パテコン受賞作品を製作する ・アイデア発想法の講習 ・アイデア発想法の指導方法の研修(大同大学・八幡化成) ・J-Platpat の利用方法の講習 ・試作品の製作 ・J-Platpat の利用方法の講習 ・先行事例の試作品製作
		1	電気工学科・電子工学科	実習/講演	
		1	機械工学科	実習/講演	
		1	電子工学科	実習/講演	
		2	機械工学科	実習/講演	
		2	土木工学科	実習/講演	
		1~3	電気研究会	部活動/ワークショップ	
		3	電気科	課題研究/ワークショップ	

工 11	大阪府立工芸高等学校	1	インテリアデザイン科	工業情報数理/実習	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に関わる知的財産についての学び(外部講師招聘①・授業内②)関連書籍購入 ・デザインパテントコンテストへの概要を知る(外部講師招聘・制作に関わる材料購入・材料検討の為に資料等購入・材料費) ・「知的財産」を学び企画、制作の検討(試作材料の購入) ・デザインパテントコンテストの概要を知る・知的財産に関わる制作物のデザイン活動(外部講師招聘) ・「知的財産」を自身の作品に関係させて企画・制作の活動 ・知的財産に関わる制作物のデザイン活動の企画・2次元における知的財産を知る(試作材料費・実作材料費・外部講師招聘) ・先進校視察(鹿児島県立川内商工高等学校・兵庫県立長田商業高等学校視察)
		2	インテリアデザイン科	インテリアデザイン実習/実習	
		3	インテリアデザイン科	課題研究/実習	
		3	インテリアデザイン科	課題実習B/選択授業	
工 12	兵庫県立相生産業高等学校	3	機械科	課題研究/座学・実習	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権についての基礎知識の学習 ・アイデアの創出(演習) <ul style="list-style-type: none"> 手法の実践 ブレインストーミング法・KJ 法 ・従来技術の把握と新たなアイデアの創出 <ul style="list-style-type: none"> J-PlatPat の使用 PDCA サイクル(作業工程等、改善の検討を各班で話をする) アイデアの実現 課題解決の実践(課題の検討・改良) ・従来技術の把握と新たなアイデアの創出 <ul style="list-style-type: none"> J-PlatPat の使用 既存技術の書き方について ・商品開発の試作(既存商品のアレンジ提案) ・外部講師による講演 <ul style="list-style-type: none"> 図面製作指導(デザインパテントコンテスト資料作成を含む) ・校内コンテスト <ul style="list-style-type: none"> デザインパテントコンテスト ・デザインパテントコンテストに向けた指導(校内コンテストの内容の再検討を含む) ・知的財産学習公開授業兼職員研修(機械科での取り組み内容の周知) ・体験教室の実演(コースター製作) ・課題製作における創造性の拡充や技術的問題点の改善 ・ロボット競技大会への参加 ・企業との連携 ・課題研究発表 ・知的財産特別授業(3月に実施予定)
		2	機械科	機械設計/座学	
		3	商業科	製図(2D/3DCAD)/座学・実習	
		1~3	機械・電気・商業科	商品開発・部活動	
工 13	山口県立徳山商工高等学校	3	機械科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に知財文庫設置 ・知的財産の基礎 ・チームで創造(ブレインストーミング・フレームワーク等) ・J-PlatPat の使い方 ・パテントコンテスト資料作成指導 ・外部講師知財講演会 ・TRIZ の活用法 ・知財創造実践甲子園事前講習参加 ・知財講習会参加 ・パテントコンテスト参加 ・ロボットコンテスト出場 ・知財創造実践甲子園出場 ・サンスター文房具コンテスト参加 ・特許検索競技大会への参加(予定) ・地域・学校に必要なものづくり(課題研究) ・地域産業の研究・企業連携(課題研究) ・ロボット作りをとおした知財学習(課題研究) ・中学生向け知財学習会開催 ・MakerFair 研修に参加
		2	機械科	機械工作	
		1	機械科	機械設計	
		3	商業科	選択製図	

工 14	山口県立下関工科高等学校	1	全学科	総合的な探究の時間／講和	<p>取組内容1[各研究部のものづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラズマジェット殺菌装置およびオゾン着蒸気殺菌装置の開発、高校生科学技術チャレンジJSEC(入選)、パテントコンテスト1件応募、山口大学ジュニアリサーチセッション応募予定 ・フルートウースを用いた無線真空管アンプと知財 ・溶接によるサッカーボールモニュメントの製作 ・リッターカーの製作
		3	電気工学科	課題研究／講義・実習・発表	<p>取組内容2[雷観測と予知に関する講義と実習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷観測装置の改善整備と観測体制の構築および観測結果の解析と予知の講義と実習 <p>講師:東海大学名誉教授岡野大祐先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・USB-6346I/O デバイス(納期未定)に代わる方法として GL7000 増設による新観測体制の改善整備実現(12月、グラフテック社村上氏による指導)
		1~3	電気/機械/建設/化学研究部	部活動／講義・実習・発表・討議・調査	<ul style="list-style-type: none"> ・Teams を活用した生徒用タブレットによる新たな雷観測画面の共有を実現し、対話型雷観測を開始 ・雷観測システムの名称とロゴマークの検討
		2	電気工学科	LHR/講義・調査	<p>取組内容3[卒業生から学ぶ知財財産教育]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生から学ぶ知的財産教育Ⅰ「卒業生の大発明(αゲルや三次元曲面印刷)および有名なデザイン(日清カップヌードルパッケージデザイン)と知的財産制度と保護の概要」実施 ・雷のお話と観測および知財 <p>講師:東海大学名誉教授岡野大祐先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生から学ぶ知的財産教育Ⅱ「J-PlatPat の活用」「ドクターランプアラレちゃん視聴」 ・校内アイデアコンテスト
工 15	山口県立田布施農工高等学校	1	全学科	産業基礎(総合的な学習)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内体制の編成 ・産業基礎
		2	機械制御科	機械工作	<ul style="list-style-type: none"> ・機械工作(デザインパテントコンテストへの参加) ・工場見学 ・課題研究 ・ロボット製作 ・ジュニアものづくりラボ
		3	機械制御科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・農工祭 ・研究発表会(2年生)
工 16	香川県立多度津高等学校	3	機械科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権制度の基礎(人間とものづくりと発明) ・知的財産について創造性と発想力を鍛える
		2	機械科	造船工学	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングとカード整理法(地域貢献できる器具や装置の発案) ・溶接作業における危険予知訓練からのアイデア発想 ・鋼材料の溶接技能基礎技術習得講習と知財創セミナー
		1	機械科	情報技術基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・企業講師による鋼材料の溶接技能応用技術習得講習と知財創セミナー ・大学講師による競技用味付製作用技術を活用したアイデア作品の考案 ・問題発見・改善シート等の活用 ・鋼材料の応用作品製作講習と創造性を鍛える訓練
		1~3	溶接部	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の学科や部活動、地域社会との連携を目標とする知財創造 ・「知的財産」を意識し、社会に貢献できる人材の育成
工 17	香川県立善通寺第一高等学校	3	デザイン科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・室内インテリアのデザインと製品化における知的財産の保護や権利の活用の導入 ・知的財産学習に関する校内セミナー ・関連企業による素材についての講義 ・知的財産学習に関する校内セミナーと関連企業による素材についての講義を受けての授業 ・製品開発の取材のためのフィールドワーク ・ここまでの活動発表 アドバイザーによる講評および助言 ・アドバイザーの講評および助言を受けての授業 ・協力企業およびアドバイザー(デザイナー)への活動発表

工 18	大分県立情報科学高等学校	1~2	全学科	未来創造部(部活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・新聞・ラジオのみではなく、教育委員会の依頼で発表も行った。発表準備をする中で著作権に気を付けて資料を作成した。 ・染色方法について調べ、素材集めに取り組んだ。染色を生かした商品アイデアを考えた。染色方法の実験など、実践は今後実施予定
		1	デジタル創造科	工業技術基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で出前授業を実施した。教材(人形劇・動画)を開発した。児童が日頃から SDGs に触れることができる積木も製作した。 ・INPIT のオンラインセミナーに参加した。その後、日常の困りを解決するアイデアを考えた。結果は落選となり、応募したのみとなった。 ・日経高校生 SDGs コンテスト決勝大会に出場した。現在は、新たなアイデアをまとめて、みらい甲子園大分大会に応募し、選考結果を待っている。
		1~3	本校・他校生徒	特別講習	<ul style="list-style-type: none"> ・工業技術基礎の中に「知的財産」のショップを設置した。10人班で2時間×3回の授業を行い、知的財産権について学び、J-PlatPat を使って検索を行った。 ・外部講師を招聘し、特許情報検索講習会を実施した。他校の生徒も参加している。全県下の工業高校の先生にも案内をだし、教員も7名参加している。
工 19	大分県立大分工業高等学校	1	全	工業技術基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・地域周辺の散策(寒田川) ・困り事を探究 ・水力発電装置の研究 ・試作品の製作
		1~3	全	発明家養成講座(放課後)	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーの研究 ・水車装置の設置・実証実験 ・防犯灯の製作・設置 ・知的財産教育講演会 ・探究基礎講座で知財を学ぶ ・発明家養成講座の全校周知
		1~3	機械・電気・電子	水車プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家講演会 ・弁理士講演会 ・発明体験ワークショップ(広島県) ・パテントコンテストに出願
工 20	鹿児島県立薩南工業高等学校	3	建築・機械・情報技術	外部講師による特別授業	<ul style="list-style-type: none"> (知的財産に関する特別授業) ・外部講師による特別授業 「身の周りの知的財産」 建築・機械・情報技術科 3年生の合同で実施
		職員		外部講師による職員研修	
		1	情報技術科	工業技術基礎/講義/実習	<ul style="list-style-type: none"> (職員研修) ・外部講師による職員研修 「知的財産と著作権 35条」
		3	情報技術科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> (校内アイデア募集) ・知的財産権の基礎学習 ・パテントコンテストに向けた試作・応募書類の作成
		3	機械科	課題研究/実習	
		3	生活科学科	調理/課題研究	<ul style="list-style-type: none"> (地域と連携したモノづくり) ・アナグマ捕獲用の箱罠製作 ・寄贈用木製脚立製作 ・地域の食材を活かしたスイーツやお弁当づくり
		3	建築科	課題研究/実習	

工 21	鹿児島県立 川内商工高 等学校	1	電気科	工業情報 数理/座 学	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用し、「情報化の進展と産業社会」「情報化社会の権利とモラル」などを授業で学ぶ。 ・知財テキストを使用し知的財産とアイデアの発想を学ぶ。実例をクイズ形式にして、内容から製品を想像させ、その後、実際にパソコンでインターネットを使用してその有用性や危険性を学ぶ。
		1	電気科	工業技術 基礎/実 習	<ul style="list-style-type: none"> ・知財テキストを使用し知的財産とアイデアの発想を学ぶ。実例をクイズ形式にして、内容から製品を想像させ、その後、実際にパソコンでインターネットを使用してその有用性や危険性を学ぶ。 ・自ら設定した製作物を完成するため、学んだ知識・技術を生かし、課題を見つけ、問題解決のため有用な情報を利用し、計画的に作業を進めていく。課題研究発表会に向けて、効果的な表現や発表方法を調べ、自分たちの発表を工夫する。
		2	電気科	電力技術・ 実習/実 習	<ul style="list-style-type: none"> ・科目:実習において、金属のかたさ試験を元に材料の特性により創造物ができていることを知る。紙という材料の特性を考え、アイデアの創出を行う。
		3	電気科	課題研究 /実習	<ul style="list-style-type: none"> ・科目:課題研究において、改善や工夫の中に特許や実用新案、意匠などが発生することを学び、「作品より製品づくり」を念頭に企画制作を行った。
		2	機械科	実習(PC)	<ul style="list-style-type: none"> ・科目:実習、課題研究において、6W1Hに基づきアイデアを練り上げ、創造性を鍛える授業を実施した。また、相手探しを各自で行い、モック製作を通して相手に合った製品づくりを行った。その中で、開発費との関連や知財の重要性について理解をしている場面が見られた。
		2	機械科	実習(材料 試験)	<ul style="list-style-type: none"> ・科目:実習、課題研究において、発案・発想法(KJ法マインドマップなど)を使用しながら6W1Hに基づいて創造活動を行った。全ての生徒が地域(外部)とつながることを目標にしたため、一層知的財産権への理解が重要であることを理解させながら取り組んだ。
		3	機械科	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教諭より、教科書や副教材等を用いて、企業の役割や企業経営について授業を行う。その際、経営資源として知的財産について触れ、具体的な例にふれながら、企業における知的財産の重要性について教授する。
		1~2	インテリア 科	出前講座	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教諭より、教科書や副教材等を用いて、社会生活において情報を正しく扱うための考え方やルールを身につける。その際、知的財産の保護について触れ、知的財産権の種類について学習しながら、社会の発展とともに増す重要性について教授する。
		3	インテリア 科	実習、課題 研究(木 工)/実習 実習、課題 研究(陶 芸)/実習 実習、課題 研究(デ ザイン)/実 習	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教諭より、教科書や副教材等を用いて、無形固定資産について授業を行う。 ・無形固定資産には、特許権等も該当し、耐用年数や会計処理方法などについて教授する。 ・担当教諭より、教科書や副教材等を用いて、知的財産の保護と重要性について授業を行う。具体的な例にふれながら、知的財産の種類や各々の内容、保護期間等について教授する。 ・担当教諭より、教科書や副教材等を用いて、電子商取引に関連する知的財産について授業を行う。具体的な例にふれながら、電子商取引に記載する法規や関連法規について教授する。 ・竹専門コーディネーター橋口博幸様を招き、商品開発における発想や技術を表現する能力について、2回にわたりご教授いただく。 ・友・ダンジェロ有限会社代表取締役田尾友輔様を招き、商品開発における知的財産権取得について、2回にわたり具体例にふれながらご教授いただく。 ・友・ダンジェロ有限会社代表取締役田尾友輔様を招き、知的財産権を活用したビジネスについて具体例にふれながら、2回にわたりご教授いただく。
			木工同好 会	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・木工同好会の生徒が、各種競技大会課題の工作法の工夫改善、校内の依頼品製作に関連する知的財産について学ぶ。
	全校生徒	知的財産 講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒向けの講演会の実施 ・本校職員向けの研修会の実施 ・校内公募型出前授業の実施 		
工 22	鹿児島県立 鹿児島工業 高等学校	1	I類	工業技術 基礎/実 習	<ul style="list-style-type: none"> ・工業技術基礎
		1	I類, II類	総合的な 探究の時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なアイデア創出の育成 ・知的財産講演会の実施 ・パテントコンテスト応募に向けた指導 ・研究テーマの設定・計画および情報収集・調査 ・技術アイデアコンテストに向けた指導
		1	I類, II類	総合的な 探究の時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを具現化する方法の指導 ・パテントコンテスト応募に向けた指導 ・各種コンテストに向けた取組
		1~3	機械部, メ カトロ部	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット競技大会への参加 ・技術アイデアコンテストに向けた指導 ・各種コンテストに向けた取組

商業

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
商 01	茨城県立那珂湊高等学校	1	商業に関する学科	ビジネスコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 実践を重視したワークショップを通年で取り入れ、自由なアイデアと柔軟な発想力を身に付けることができた。自宅学習も含め J-PlatPat による検索、特許庁「商標拳」等の視聴を実施し、ライセンス商法についての意識付けができた。 連携企業との継続企画。ヒット商品が生まれる背景や産業財産権等の講義、校内で展示、発表や企業プレゼン等を主体的な活動ができた。 地域商店街を含め大手コンビニエンスストア等全国販売が開始された。開発の経緯、知財学習の認知等を含め、生徒がPOP制作企画を提案、106 案中 3 案が採用され完売した。 生徒商業研究大会に 5 名の生徒が参加することで、本校の特色、地域とのつながり、商標登録による商品化、全国販売などを説明展示することができた。生徒は自信を持って活動を説明発表し、今後につながる活動となった。 動画による授業を展開することで、全校生徒で共有することができた。その際、生徒自身が全ての取り組みを「ブランド化」を軸に知財の観点から説明できた。 生徒1名が名古屋の連携企業を訪問し本校の活動と知財学習の成果について報告を行った。
		2	起業ビジネス科	商品開発と流通	
		3	情報ビジネス科	ビジネスデザイン(学校設定)	
		2~3	起業/選択	マーケティング	
		3	会計ビジネス科	コンピュータ会計(学校設定)	
		3	起業ビジネス科	広告と販売促進、起業実践	
商 02	千葉県立千葉商業高等学校	1	商業科	総合的な探究の時間/授業	<ul style="list-style-type: none"> ビデオ教材を活用した 知財に関する事前学習① ビデオ教材を活用した 知財に関する事前学習② 事業説明、マーケティングについての講習 製品担当者とのミーティング 発表資料の作成および発表練習 商品企画発表および総評 商標登録等申請について プロモーションについて 発表資料の作成および発表練習 最終報告会
		3	商業科	商品開発/授業選択者	
商 03	神奈川県立平塚農商高等学校	全	農業科	課題研究、アグリ・ビジネス/講演	<ul style="list-style-type: none"> マシュマロチャレンジをとおして、思考力・判断力・表現力等の育成。 パッケージの作製をとおして、自分たちが作製したパッケージを使用して販売(活用)するために、保護することが大切であることを学ぶ。 J-platpat の仕組みや、弁理士の仕事について理解する。 商品開発の試作を行い、知的財産に関わるパッケージデザイン等の影響について学ぶ。 湘南ひらつか七夕まつりに掲出する飾りについて、過去のデザイン等の研究・分析を行い、七夕飾りの作製を通して、思考力を鍛え、自らの創造物の課題や効果を表現する力を身につけさせる。 平塚農商高校総合ビジネス科のマスコットについて、これまでの経緯を踏まえて活用方法について考える。 デザインパテントコンテスト応募のため、J-platpat の活用方法や注意点を学ぶ。 1年生に対して、知的財産権を守ることの大切さを理解させる。(授業プリントにより、理解度が80%を超えることを目標にする) 課題研究発表会で「アイデアを活用するためには守る必要があること」、「社会での活用を意識した知的創造活動が大切であること」を生徒に周知する。
			総合ビジネス科		
		3	総合ビジネス科	課題研究/授業	
		2	総合ビジネス科	課題研究/授業	
		1	農業科 総合ビジネス科	アグリ・ビジネス/授業	
商 04	兵庫県立長田商業高等学校	3	商業科	地域創造	<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラを使用した映像素材の撮影と動画編集ソフトを使用した映像作品の制作 プログラミング学習教材を使用した JavaScript の学習とマイコンを使用したコーディングを学ぶ 装置の完成とコードの改善 商品開発及びコンテスト応募や販売実習 クラフト製造技術に関するワークショップ 企業と新商品開発 弁理士による知的財産権に関する授業の開催
		2	創造ビジネス科	地域創造	
		1	創造ビジネス科	地域創造	

農業

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
農 01	秋田県立増田高等学校	1	農業科学科	総合実習	<ul style="list-style-type: none"> ・農業科学科集会 ・TDK知財セミナー ・農業機械・器具に関する知的財産権調査 ・J-PlatPat による探索学習
		2	農業科学科	総合実習・課題研究・農業と情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーススタディ形式による知財学習 ・農産加工品の改善・検討 ・除雪・克雪に関する知的財産権調査 ・アグリビジネス創出フェアでの職員研修 ・市場調査・環境調査
		3	農業科学科	課題研究・実践農業・作物	<ul style="list-style-type: none"> ・J-PlatPat による先行技術調査 ・作品の試作 ・全国農業高校収穫祭での職員研修 ・作品の改善
農 02	山形県立置賜農業高等学校	3	園芸福祉科	課題研究、総合実習／実験実習	<ul style="list-style-type: none"> ・「知的財産教育推進委員会」立上げ(校長・教頭・事務長・教諭・実習教諭) ・地域資源植物(最上紅花、ダリア、ニオイ木)の栽培と加工品の試作を行い実践が知的財産につながることを学習した。 ・農業クラブ専門分会研究班の活動で工夫改善や試作を繰り返して商品化に向け完成度を高め、商標を考えデザインを完成させた。
		2	園芸福祉科	総合実習、生物活用／実験実習	<ul style="list-style-type: none"> ・校内セミナーを開催し商標デザイン作成のアドバイスを受け。知財の権利と侵害について学んだ。 ・ラベルデザインの研修としてダリア生産者とダリアの華展(国内最大級イベント:東京都池袋)へ出向き商標の市場や消費者の評価および知財の重要性について学んだ。
		1	園芸福祉科	総合実習、農業と環境／座学、実習	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生体験入学では、最上紅花、ダリアと、ニオイ木の学習を通じた知的財産権についても説明した。 ・校内プロジェクト発表会において研究成果を発表した。 ・商標権を中心として喜早洋介氏より商標登録手続きについて指導を受けた。
農 03	大阪府立園芸高等学校	2~3	バイオサイエンス科	課題研究／実習	<ul style="list-style-type: none"> ・本校オリジナル加工食品の開発を目標とし、商品づくりのアイデアをグループのメンバーと協議して創出し、実現化に向けて取り組んだ。 ・大阪工業大学の杉浦教授に出前授業をしていただき、知財の基礎について学習を行った。
		2	全学科	探究創造／座学	<ul style="list-style-type: none"> ・本校を PR するためのポスターをグループで制作した。デザインの活かし方や、興味関心をひくための技術などを学んだ
		2	全学科	探究創造／実習	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府能勢町で生産される高品質なブランド炭である「池田炭」を生産している小谷氏を訪問し、炭焼き体験や里山保全について学習した。 ・環境機器株式会社営業部長三浦氏に講義を依頼し、駆除すべき害虫に関することや、捕虫器に関する特許についての話をもらった。また、その知識を生かして自然由来成分の忌避剤開発を行った。
		3	環境緑化科	総合実習／実習	<ul style="list-style-type: none"> ・山口大学の陣内准教授から知的財産についての基礎的な内容を学ぶことで知財についての興味関心を高めた。
農 04	熊本県立熊本農業高等学校	3	畜産	畜産・食品製造、課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・知財学習とプロジェクト学習の関連性 ・プロジェクト型学習(課題研究)の進め方 ・知的財産学習の基礎 ・3年生課題研究テーマ及び実施内容についての中間報告会
		2	畜産	課題研究	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源と知的財産の活用事例研修 ・地域協働による探究学習(課題研究)推進校研修 ・ソフトクリーム研修会 ・農業生産工程管理と知的財産学習の指導計画作成 ・農業生産工程管理と知的財産学習のシラバス作成
		1	畜産	農業と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産工程管理と知的財産研修 ・知財学習先進校との生徒交流会 ・課題研究における知財学習のまとめ

水産

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
水 01	秋田県立男鹿海洋高等学校	3	海洋・食品科学	課題研究・総合実習／製作・研究	男鹿逸品コレクション開催(成果物発表・お披露目会) 校内成果発表会(R5.12.13) 課題研究等発表会(R6.1.18) ・身近にある知財の観察 ・J-platpat による情報検索 ・創造力の育成(紙タワー・アイデアラッシュ) ・産業財産権標準テキストを用いた学習の実施 ・商品の観察と J-platpat による検索、公報の理解 ・ビジュアル発想法(ロルト・ファン)による学習 ・なぜなぜ分析法・コンセプト・ファン(エドワード・デボノ)による問題を分析する学習 ・知財学習の実施(ラピス等) ・アイデア発想法の実施 ・J-PlatPat を利用した検索活動 ・市場調査と情報収集活動 ・ものづくりを通じた製作、研究 ・水産物を用いた試作品の研究 ・J-platpat による情報検索 ・アイデア発想法の実施(BS 法 KJ 法) ・市場調査と水産物を用いた試作品の研究 ・実習製品ネーミング, パッケージ コンテストの実施(商標・意匠検索) ・知財学習(産業や経済) ・弁理士の職業や検定の学習 ・特許・商標登録模擬出願 ・校内成果発表会
		2	海洋・食品科学	総合実習／講義・演習	
		1	海洋・食品科学	水産海洋基礎／講義・演習	
		全	全学科	学校行事／学校祭・成果発表会	
		3	海洋・食品科学	課題研究／校内発表会	
		全	全学科	課題研究／成果発表会(工業高校と合同開催)	
水 02	静岡県立焼津水産高等学校	2	流通情報科	総合実習水産海洋科学	【講義】オリエンテーション 【見学・講義】南駿河湾漁協を見学し、「波乗り鱈」のブランド化の手法を学ぶ 【実習】ブランド魚とそうでない魚とを比較し、商品の価値を認識する 【講義】商品開発過程における知的財産の保護と活用 【講義】知財の知識を活用した水産物の商品開発の手法を学ぶ。 【実習】知財の知識を活用した水産物の商品開発の手法を学ぶ。 【見学】企業等における知財の活用法の学習 【見学・講義】地元水産物のブランド化の実践 【講義・実習】地元水産物のブランド化の実践
水 03	愛知県立三谷水産高等学校	1	本科生4学科	海洋情報技術	・校内知財セミナーおよび事前アンケート調査 ・知財に関する事後アンケート調査(10/10) ・知財セミナー(ワークショップ型)および事前・事後アンケート調査 ・商品開発における各種活動 ・キャラクター制作委員会の立ち上げ・キャラクターデザイン・設定等の検討 ・委員会の特許庁訪問および商標登録セミナー ・キャラクターの商標登録の理解とアドバイザーによるシミュレーション
		3	水産食品科	課題研究	
		1~2	3学科	有志生徒/放課後	
水 04	京都府立海洋高等学校	3	全学科・コース	課題研究／座学(実習含む)	・科目「海洋情報技術」等で取り扱った。 ・科目「課題研究」等で実施した。 ・弁理士の指導の下で実施した。 ・産学官連携して実施した。 ・弁理士に來校していただき対面で実施した。 ・弁理士会から講師を派遣していただき実施した。 ・7月及び2月(予定)に全校規模で実施した。 ・夏季休業中に一部コースで取り組ませた。 ・航海船舶コース3年が書類作成し、事前選考した。 ・10月及び1月(予定)に産学官が交流し実施した。 ・指導 No.⑧に関わり、意見交流した。 ・該当生徒の「意匠」登録に関わり実施する。(予定)
		2	航海船舶コース	総合実習／実習等	

水 05	愛媛県立宇和島水産高等学校	1	水産食品科	水産海洋基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発 ・展示会での展示説明(東京ビックサイト) ・弁理士による講義 ・成果報告書作成 ・新しい技術開発 ・成果報告書作成 ・知財を保護・尊重する意識の育成 ・権利と活用する能力の育成
		2	水産食品科	食品製造	
		3	水産食品科	水産流通	
		2	水産増殖科	資源増殖	
		3	水産増殖科	課題研究	
水 06	宮崎県立宮崎海洋高等学校	1	海洋科学科	総合的な探究の時間／講義・演習	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンター ・話し合いの技法(アイデア創出法) ・市場調査と宮崎獲れ魚を使った製品案を企画する(宮崎市中央卸売市場他、株式会社器) ・宮崎獲れ魚と野菜を使った製品の試作、試食、意見交換(株式会社器) ・宮崎獲れ魚と野菜を使った製品の試作、試食、意見交換 ・市場調査(県外)・試作品の製造・試食アンケートの実施 ・新商品販売 ・知的財産(開発技術)に関する授業、津本式(究極の血抜き)を学ぶ ・知的財産活動と知的財産～私たちの暮らしを支えるために～ ・弁理士による知的財産権に関する授業(発明トレーニング) ・企業担当者による知的財産権に関する授業(特許商標に関する講義) ・陸上閉鎖式循環養殖研究計画作成 ・マリンロボットについて調査学習 ・マリンロボット設計開発 ・陸上閉鎖式循環養殖(給餌実験1) ・カキ養殖場見学 ・マリンロボット試運転・調整等 ・陸上閉鎖式循環養殖(給餌実験2) ・全国水産・海洋高等学校マリンロボットコンテスト
		2～3	海洋科学科(海洋パイオタイプ)	栽培漁業／講義・施設見学	
		2～3	海洋科学科(水産食品類型)	総合実習／講義・実習	
		3	海洋科学科(海技士(機関)類型・海洋機器類型)	課題研究／実験実習	
		2～3	海洋科学科(水産食品類型)	課題研究／講義・実験実習	

情報

学校番号	学校名	学年	学科	科目／形態	取組内容(目的・目標要約)
情 01	日本文理大学附属高等学校	1	情報技術科	工業技術基礎等	<ul style="list-style-type: none"> ・県発明協会、弁理士会出前授業、発明体験、書籍整備 ・知財学習導入 ・知財学習展開、検索検定 ・知的創造 ・知的創造改善 ・知財学習発表
		2	情報技術科	課題研究等	
		3	情報技術科	課題研究等	

高等専門学校

学校番号	学校名	学年	学科	科目/形態	取組内容(目的・目標要約)
専 01	旭川工業高等専門学校	2	全学科	公 共 / 座 学	<ul style="list-style-type: none"> ・IoT 機器などの活用方法の学習 ・知財学習に必要な書籍の購入 ・パテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの応募作品の製作 ・弁理士・知財管理 1 級技能士等 OB の講演を聴講する ・発明研究会の活動の学内周知 ・社会に求められている「もの」の調査・アイデア出し・製作
		4	全学科	国際関係論 / 座学	
		5	全学科	知的財産権論 / 演習形式	
		クラブ活動	発明研究会	クラブ活動	
専 02	一関工業高等専門学校	5	未来創造工学科 機械・知能系	実践技術Ⅱ / 講義 および演習	パテントコンテスト応募用試作品の製作 パテコンサミット in 一関の開催
		5	未来創造工学科 電気・電子系	実践技術Ⅱ / 講義 および演習	
		5	未来創造工学科 情報・ソフトウェア系	実践技術Ⅱ / 講義 および演習	
		5	未来創造工学科 化学・バイオ系	実践技術Ⅱ / 講義 および演習	
専 03	サレジオ工業高等専門学校	1	機械電子工学科	創造演習 / 演習科目	<ul style="list-style-type: none"> ・知財創出マインド育成 ・知財活用事例研究 ・知財マネジメントスキル教育 ・知財創出スキル実習 ・知財活用をベースとした起業家教育プログラムの開発
		5	機械電子工学科	創造設計学 / 演習科目	
		1~5	全学科からの希望者	講義	
		1~5	デザイン学科	課外活動	
		1~3	全学科からの希望者	夏休み集中講座	

専 04	沼津工業高等専門学校	1	全学年	工学基礎 知財セミナー	<p>工学基礎</p> <p>1.知財の重要性を知る～著作権～ 7月19日</p> <p>2.知財の重要性を知る～産業財産権～ 7月26日</p> <p>3.課題発見/解決する。～TRIZ～ 9月20日</p> <p>全2年生対象の知財学習:日本弁理士会と高専機構との連携協定に基づく知財セミナー、日本弁理士会より沼津高専オリジナル編の実施 6月26日</p>
		2	全学年	知財基礎 セミナー	<p>全3年生対象の知財学習:日本弁理士会東海支部のご協力による知財セミナー、日本弁理士会東海支部の講師による講義 12月15日</p> <p>全4年生対象の知財学習:「社会と工学」知財セミナー、裾野市と連携し、知財学習による未来の街創りの提案</p> <p>1.TRIZ 課題発見法と事例 10月16日</p> <p>2.TRIZ 課題解決法と事例 11月6日</p> <p>3.課題の9画面法による分析 12月4日</p> <p>4.提案分析と知財の活用 1月29日</p>
		3	全学年	知財応用 セミナー	<p>課題研究</p> <p>活用を意識した発想法 TRIZ を学び、Teams を用いた遠隔/対面のハイブリッド「TRIZ を学び「癒・食・知」のプチ起業」と題し、「癒・食・知」に関わる発明原理を探し、活用を意識したアイデア提案を行う。</p> <p>・プチ起業アイデアブラッシュアップセミナー 11月16日、12月7日</p>
		4	全学年	社会と工 学	<p>知財のTKY(寺子屋)</p> <p>「部」に昇格し、各プロジェクト活動を推進した。</p> <p>1.3Dブロック</p> <p>等身大3DブロックシーラカンスをTRIZを活用して製作し、沼津港深海水族館の本物の隣に継続展示中。</p> <p>2.KV-BIKE(電池自転車)</p> <p>2023Ene-1 Challengeの課題に対応したマシンの改善と出場及び映像データの活用。茂木大会:大学高専部門5位。</p> <p>3.深海調査</p> <p>駿河湾深海2030mの4K映像撮影に成功し、日本動物学会全国大会(山形)と中部支部大会(三重)で発表</p> <p>4.ビジネスモデル</p>
		1~4	全学年	課題研究	<p>特許庁長官賞2年連続受賞を活かし、プチ起業に継続参加した。</p> <p>5.映像編集/モデリング</p> <p>駿河湾フェリーの船上教育プログラム「夕焼け・星空を観察しよう」を製作した。</p> <p>6.オオグソクムシ(海のダンゴムシ)</p> <p>沼津港深海水族館と連携し、観察を行い日本動物学会全国大会(山形)で3件の発表をした。</p> <p>7.バイオマス発電</p> <p>深海バイオマス発電等の環境・エネルギーの紹介</p>
		1~5	全学年	知財の TKY	<p>特許庁長官賞2年連続受賞を活かし、プチ起業に継続参加した。</p> <p>5.映像編集/モデリング</p> <p>駿河湾フェリーの船上教育プログラム「夕焼け・星空を観察しよう」を製作した。</p> <p>6.オオグソクムシ(海のダンゴムシ)</p> <p>沼津港深海水族館と連携し、観察を行い日本動物学会全国大会(山形)で3件の発表をした。</p> <p>7.バイオマス発電</p> <p>深海バイオマス発電等の環境・エネルギーの紹介</p>
専 05	奈良工業高等専門学校	1~3	電子制御・ 機械	<p>工学実験・ 創造設計 製作/実 験・実習</p> <p>・ロボット教材を用いたPBL教育</p> <p>設定された課題を解決するロボットの設計および製作をグループごとに実施する。ブレインストーミング等の手法を利用して発想法の学習や実践に取り組む。また、レポート作成を通じて自らが考えたロボットの特徴や機能を文章や図面で表現する能力を養うとともに、課題解決能力を育む。またプレゼン能力も身に付ける。</p>	
		4	電子制御・ 機械	<p>システム 設計製作 /実験実 習・課外</p> <p>・4年を対象として知財セミナー</p> <p>5年で行う特許検索競技大会への意識づけとして11月に講演会形式で弁理士を招いた知財セミナーを行う。</p>	
		5	電子制御・ 機械	<p>応用シス テム設計・ 機械設計 工学・卒業 研究</p> <p>・5年を対象とした特許検索研修会</p> <p>11月に特許検索競技大会出場のための講演会と講習会を電子制御と機械で合同開催する。また、研修終了後に特許検索競技大会に出場する。</p>	
		2	電子制御	<p>機械工学 実習</p> <p>・2年生を対象としたTRIZを用いた知財教育</p> <p>4~8月に機械工学実習の1テーマとしてTRIZを用いて課題発見力・解決力を身に付けるために演習を行う。</p>	